

# 平成25年度学力向上課題解決プラン

羽生市立西中学校

本校の現状	
〔全国学力・学習状況調査、埼玉県学習状況調査、教育に関する3つの達成目標効果の検証等分析〕	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの達成目標では、例示の効果を考えて内容を理解することが課題である。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」の正答率が高い。</li> <li>・「関心・意欲・態度」と「書く」ことが課題である。</li> <li>・文章の表現の特徴を捉え目的に応じた必要な情報を読み取ること。伝えたい事柄を明確にして書くこと。語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと等が苦手である。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的分野よりも地理的分野の方が正答率が高い。</li> <li>・社会的な事象への関心・意欲・態度や社会的な思考・判断・表現力が優れている。</li> <li>・資料活用の技能が他の観点と比べて低い傾向にある。</li> <li>・緯度、経度の理解や平安京、琉球の位置に関する知識が身につけていない。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学への関心・意欲・態度が高く、図形の正答率が高い。</li> <li>・数学的な技能の無解答率が高い。</li> <li>・「数量」や「図形」などの知識・理解の正答率が高い。</li> <li>・3つの達成目標「計算」では、連立方程式の解答率が低い。</li> <li>・「関数」分野の座標、式を求めることに課題がある。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1分野2分野とも、すべての観点において優れている。</li> <li>・観点の中では、他の観点と比較して科学的な思考・表現がやや低い。</li> <li>・全体的に理科の学力が高い。</li> <li>・植物の葉のはたらきと水溶液の小単元の理解に課題がある。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「聞くこと」「書くこと」の能力に優れている。観点では「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」が優れている。</li> <li>・「読むこと」と「外国語理解の能力」が他の観点と比べてやや低い。</li> <li>・全体的に英語の学力が高いが、書いて表現する力に課題がある。</li> </ul>

改善の基本方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 授業の改善（わかる・できる授業の展開）</li> <li>② 各教科における「言語活動の充実」</li> <li>③ 基礎・基本の徹底</li> <li>④ 「生きる力」を身につける道徳教育の充実</li> <li>⑤ 家庭学習の定着</li> </ul>

具体的改善策 → 学力向上部を設置して組織的に対応する
<p>①～③について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「わかる・できる」授業展開のための教科会の充実。（月1回以上）</li> <li>○学習指導案には「言語活動の充実」「学習指導の工夫」を盛り込み、各教科の思考・判断・表現力を向上させる。</li> <li>○授業では体験的・課題解決的な学習を取り入れ、学び合い・高め合う場面をつくる。</li> <li>○長期休業中の「のべ30日の補充学習」を全職員で実施する。</li> <li>○少人数指導では、授業ごとに情報交換・意見交換を行う。</li> <li>○「大学生による学習ボランティア」を積極的に活用し、個別の支援を行う。</li> <li>○学力向上の視点で3年間を見通した全体計画、年間指導計画を整備し、随時見直しを図り改善していく。</li> <li>○基礎・基本の定着を図り、興味・関心を高めるワークシート類の教材開発をする。</li> <li>○教科の観点を意識した小テスト、単元テストを定期的実施する。</li> <li>○学習につまずいている生徒に対して補充学習を行う。</li> <li>○校区の小学校に出向き、勉強を教える中学生学習ボランティアを実施する。</li> <li>○英語の教科会を時間割の中で週1回確保し、英語のコミュニケーション能力向上のために、ALTとの効果的な授業について随時検討していく。</li> <li>○ワークショップ型の研修、21世紀型スキルの導入</li> </ul>
<p>④について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「生きる力」を身につけるために、道徳教育を校内研修の柱とする。</li> <li>○心に響く道徳の授業を展開するために、一人一研究授業を展開する。</li> <li>○規範意識や自立・自律する力を身につけるために立腰教育、あいさつ等の礼儀を重んじる教育を展開する。（西中3つの礎の定着）→望ましい学習集団づくり</li> </ul>
<p>⑤について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校で身につけた家庭学習の習慣を継続させる。学習につまずいている生徒については個別指導をする。</li> <li>○学習意欲の向上、家庭学習の定着のため学力向上通信を発行し、保護者及び生徒に啓発する。</li> <li>○定期テスト時に学習計画表を活用し、学習習慣の定着を図る。</li> <li>○提出物を出せない生徒に個別支援をし、提出率100%を目指す。</li> </ul>

各教科の具体的な改善策及び目標（別掲）

(別掲) 各教科の具体的な改善策及び目標

<p>○国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元・教材においての導入・発問・板書計画に工夫を凝らす。</li> <li>・漢字や語句の意味をしっかりと押さえた上で、じっくり文章を読ませ、感想をもたせる。</li> <li>・教科書に掲載されている古典作品の冒頭文を暗唱させる。</li> <li>・「読む力」を身につけるため、音読を繰り返し、文章構成を正確に理解させるとともにさまざまな表現の方法を体験させる。</li> <li>・「書く力」を身につけるために、分量や組み立ての条件を明確にした上で、「書く」授業を展開し、「話す」に結びつける。</li> </ul>
<p>感想文(初発とまとめ)を通して、自分の思いや考えを文字にして、発表し評価する。発問を工夫し、時間をかけ、ノートやワークシートに自分の考えを書かせた上で発言につなげる。説明的文章においての要約文のまとめ方(5W1H・字数制限)や、文学的文章において主題に迫る学習活動を工夫する。</p>
<p>○社会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的分野では地理的な座標となる基礎を理解させるために国、都道府県の位置や名称、特色などの小テストを行い、全員合格するまで粘り強く指導する。</li> <li>・歴史的分野では、古墳時代、平安時代、鎌倉時代の代表的な文化財の理解を高めるために、各時代の文化の特色流れを理解しやすいように、文化史として復習をする。</li> <li>・現代の社会的事象に関心を持ち、授業とつながりを持って考えることができるように、新聞等の資料を生徒の発達に応じて授業に取り入れる。</li> <li>・全体として苦手な「地形図の読み取り」「時差」等の補習を行い弱点を克服させる。</li> </ul>
<p>課題となった単元を復習する。特に「自然と人々の生活」や「調査の方法への理解」等を重点的に授業で扱う。地理的内容の知識・理解を定着させるため反復学習を重点的に行う。</p>
<p>○数学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数式では基礎的な計算(特に文字式)を反復学習させる。(小テストの活用)関数では表から式、式からグラフ、グラフから式の定着を図るために補習等を行う。</li> <li>・数量や図形などに関する基礎的な概念や原理法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得させる授業を引き続き展開する。</li> <li>・数学的な見方・考え方の良さ・楽しさを体感し、それらを活用し、考え・判断する力を育てる。</li> <li>・長期休業中の「補充学習」を弱点を克服できるよう単元別のコース制で実施する。</li> <li>・少人数指導を生かし、個に応じた支援を行う。</li> </ul>
<p>関数分野の指導では、「表⇄式⇄グラフ」それぞれの関連と双方向の表現の定着をさせるため、補習や授業の中で意図的に取り入れた指導をする。</p>
<p>○理科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習用のプリントや長期休業中の宿題によって、基礎的基本的な知識の定着を図る。</li> <li>・科学的事象について実生活に結びつけた授業を展開し、科学的思考力を向上させる。</li> <li>・実験や観察の際、根拠を明確にし予想を立てられる。</li> <li>・レポート作成の機会を増やし、生徒の考察及び表現に対しての評価規準を明確にし、具体的なアドバイスとともに評価を重ねる。</li> <li>・実験等ねらいを明確にしけじめをつけた授業を展開し、授業規律を確立する。</li> </ul>
<p>植物の葉のはたらきと水溶液の小単元の理解が定着していないので、現在の1年生は担当教員が重点的に学習指導を行う。2年生には、長期休業中の宿題として復習をさせる。関連がある単元の授業で復習を取り入れる。</p>
<p>○英語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域の指導を徹底するとともに、統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成する。</li> <li>・英語の目標を明確に把握する。その際、ALT及び少人数指導を効果的に活用する。</li> <li>・授業で基本的な対話文等のInput活動を取り入れていく。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 初歩的な英語を聞いて話し手の意向を理解する。</li> <li>② 初歩的な英語を用いて自分の考えを話す。</li> <li>③ 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向を理解する。</li> <li>④ 英語を書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えを書く。</li> </ol> </li> <li>・長期休業中の「補充学習」で弱点を克服できるよう単元別のコース制で実施する。</li> </ul> <p>「英語を聞き、声に出し、黙読して、理解を深めてから書く」というステップに移る。基本文を口頭で言えるように練習したあとで、繰り返し書いて対話できるような基礎的な表現を覚えさせる。</p>



<p><b>本年度の重点目標</b></p> <p><b>家庭学習の定着</b> → 各学年の取組で生徒アンケートで「家庭学習をしている生徒」を80%以上にする。“できなくて叱る”指導から“やらせきってほめる”指導への転換を図る。宿題などの提出率100%を目指す。学習につまずいている生徒、自信を失っている生徒への支援・補充学習を充実させる。</p> <p><b>授業力の向上</b> → 授業に体験的・課題解決的な学習、学び合い・高め合う場面を設定し、「分かりやすく工夫された授業」を生徒アンケートで80%以上にする。</p>
--